

3-②. 市民活動の場の支援(CANVAS谷町)事業

－ 2013年4月のオープンから7年。ポラ協らしい民設民営の拠点を運営！

2013年4月よりCANVAS谷町（大阪市中央区）を管理・運営。CANVAS谷町では、フレックスデスク5団体、コーディネーションデスク1団体が活動した。CANVAS谷町の自主財源でもある貸会議室の平均稼働率は、小会議室49.3%、大会議室31.9%、大会議室ハーフ利用9.8%、たたみスペース18.7%、情報交流エリア12.1%であった。

1. CANVAS谷町を拠点として活動する団体

CANVAS谷町を拠点として活動する団体に、フレックスデスク、コーディネーションデスク、レターボックス、ロッカー小・中・大を貸し出している。

（1）フレックスデスク

特定の事務所を持たず、週数回程度の事務所作業や活動を進める「事務所機能」を求める団体にとっての利便性をもったデスクと、郵便物を受け取ることができるレターボックスを提供。団体同士が「事務所」をシェアしながら、拠点に集まる人、団体や支援者と出会い、共に資源や知恵を共有できる場を作っている。

■フレックスデスク利用団体一覧（5団体・50音順）

大阪手びきの会（～2019年9月）、特）自然環境復元協会、創作サポートセンター、日本水防災普及センター（2020年1月～）、まるっと西日本（東日本大震災県外避難者西日本連絡会）

（2）コーディネーションデスク

フレックスデスクよりも利用頻度が高く、活動・事業でコーディネーションや電話相談を行なう団体に対して、デスクを提供している。

■コーディネーションデスク利用団体一覧（1団体）

特）キャンピズ

（3）レターボックス

対外的な連絡先（郵便受）を持ちたい団体に対して、レターボックスを貸し出している。

■レターボックス利用団体一覧（27団体・50音順）

特）いくの学園、ACoA Stories／大阪グループ、ACODAローゼズ、大阪交通遺児を励ます会、特）大阪市計量協会、大阪セルフヘルプ支援センター、大阪手びきの会、大阪帆船と国際交流の会（SAIL' O'）、大阪筆記通訳グループ「ぎんなん」、おはなしグループ綿の花、かなしみぼすと、特）キャンピズ、くつろぎステーションつばさ、コーポラティブまいど、G20大阪サミット実行委員会（～2020年3月）、特）自然環境復元協会、創作サポートセンター、地球コード研究会、なにわ語り部の会、日本水防災普及センター、BHNテレコム支援協議会関西事務所（2019年6月～）、ファミリーズアノニマス大阪（2019年4月～）、福祉カウンセリング協会、プチ大阪兄弟姉妹会、まるっと西日本（東日本大震災県外避難者西日本連絡会）、レインボーフェスタ！実行委員会、ワーキング・ウィメンズ・ネットワーク

（4）ロッカー

CANVAS谷町を活動の拠点とし、活動・事業で荷物の保管が必要な団体に対し大・中・小ささまざまなサイズのロッカーを貸し出している。

■ロッカー利用団体一覧（20団体・50音順）

ACoA Stories／大阪グループ、ACODAローゼズ、大阪交通遺児を励ます会、特）大阪スタタリングプロジェクト、大阪セルフヘルプ支援センター、大阪手びきの会、大阪筆記通訳グループ「ぎんなん」、ギャマノン天満橋グループ、特）キャンピズ、くつろぎステーションつばさ、コーポラティブまいど、手話サークル「つくし」、創作サポートセンター、地球コード研究会、中卒・中退の子どもをもつ親のネットワーク、なにわ語り部の会、日本水防災普及センター、福祉カウンセリング協会、プチ大阪兄弟姉妹会、まるっと西日本（東日本大震災県外避難者西日本連絡会）

2. CANVAS谷町で実施された様々な動き

（1）CANVAS谷町のデザインチーム「たにまちっく」の活動

「CANVAS谷町」に全国から集まる市民活動情報を分かりやすく来館者に伝えることや、心地の良い空間を作り、さまざまな人の居場所にする、さまざまな団体、人の橋渡しをすることを目的として活動をしているチーム。2019年度は、カフェコーナーの利用促進に重点を置いた活動をした。利用者が一人で使えるようにコーヒーマシンの使い方マニュアルの作成。また、カフェテーブルに意見箱を置き、頂いた利用者の感想や意見を掲示板にて返信する方法で、双方向のコミュニケーションを試みている。

また、大会議室の利用者の方々から「机や椅子を移動させた後の現状復帰が難しい」との声を受けて、メンバーで知恵を出し合い、カーペットと同系色のマジックテープを使用することにした。結果、移動の際の引っかかりも気にならず、短時間で正確に現状復帰できるようになったと好評を得た。



（2）事業指定寄附の募集

2018年度に引き続き、自助（セルフヘルプ）グループが会議室を利用しやすくするための「自助グループ利用応援寄附」を募集し、目標額100,000円に対して66,000円（のべ17件）（内、2019年度は13,000円、のべ2件）のご寄附をいただいた。応援寄附の利用団体はなかった。寄附者名は、「2019年度の援助者および会員」に掲載している。

3. CANVAS谷町の全体的利用状況

人と人がつながったり、市民活動に関する情報を入手できることはCANVAS谷町の重要な機能のひとつである。情報交流エリアでは、市民活動に関するイベント、ニュースレター、ボランティア情報などを提供した。

同時に、NPO支援の一環として印刷機や紙折り機などをワークスペースに設置しているが、印刷機・コピー機の利用は414件（前年度422件）であった（協会利用は含まず）。

（1）会議室の利用主体別件数および割合、会議室種別の稼働率

貸会議室はNPO支援メニューのひとつであるとともに、CANVAS谷町の大きな自主財源でもある。2019年度の利用件数は1,562件だった。利用主体別の利用実績は、パートナー登録団体771件、協会671件、一般108件、会員12件だった（図3-5）。年間の平均稼働率は、小会議室49.3%、大会議室31.9%、大会議室ハーフ利用9.8%、たたみスペース18.7%、情報交流エリア12.1%であった。

2020年2月末から新型コロナウイルス感染拡大防止による会議室キャンセルが相次ぎ、3月以降の利用が激減した。近隣の企業の利用が増え、順調に収入を伸ばしていたが、前年度を下回る結果となった（図3-6）。

図3-5 利用主体の割合

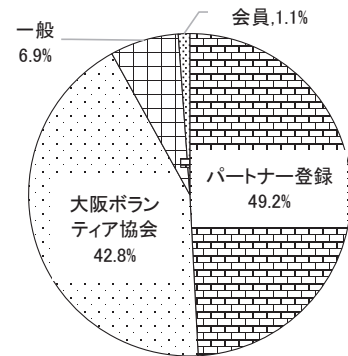


図3-6 貸し会議室の利用件数(縦棒)と収入(折れ線) ※協会利用分を含む

